

2018年3月期決算概要



日進工具株式会社

2018年5月11日
(証券コード6157)

目次

1. 2018年3月期の業績	P. 3	・・・	決算の概要
	P. 4	・・・	営業利益の増加要因
	P. 5	・・・	損益計算書サマリー
	P. 6	・・・	貸借対照表サマリー
	P. 7	・・・	業績推移
2. 2019年3月期の業績見通し	P. 14	・・・	業績見通し
	P. 15	・・・	2019年3月期の重点戦略
	P. 16	・・・	配当予想
	P. 17	・・・	設備投資と減価償却費のトレンド
< 参考資料 >	P. 19	・・・	企業概要
	P. 21	・・・	日進工具の特長・強み
	P. 23	・・・	超硬小径エンドミル市場の概況
	P. 24	・・・	当社製品の用途と主な需要業種
	P. 25	・・・	生産・開発拠点
	P. 26	・・・	グループ会社の概要
	P. 27	・・・	株式の状況
	P. 28	・・・	主要データ推移・投資指標
	P. 30	・・・	株価推移とバリュエーション
	P. 31	・・・	I R サイトのご案内

2018年3月期の業績



決算の概要

4期連続の最高益更新

(百万円)

	通期予想	2018年3月期 通期実績	予想対比
売上高	9,550 (+8.2%)	9,767 (+10.7%)	217 (+2.3%)
営業利益	2,500 (+24.2%)	2,695 (+33.9%)	195 (+7.8%)
経常利益	2,530 (+24.9%)	2,733 (+34.9%)	203 (+8.1%)
当期純利益	1,750 (+23.2%)	1,903 (+34.0%)	153 (+8.8%)

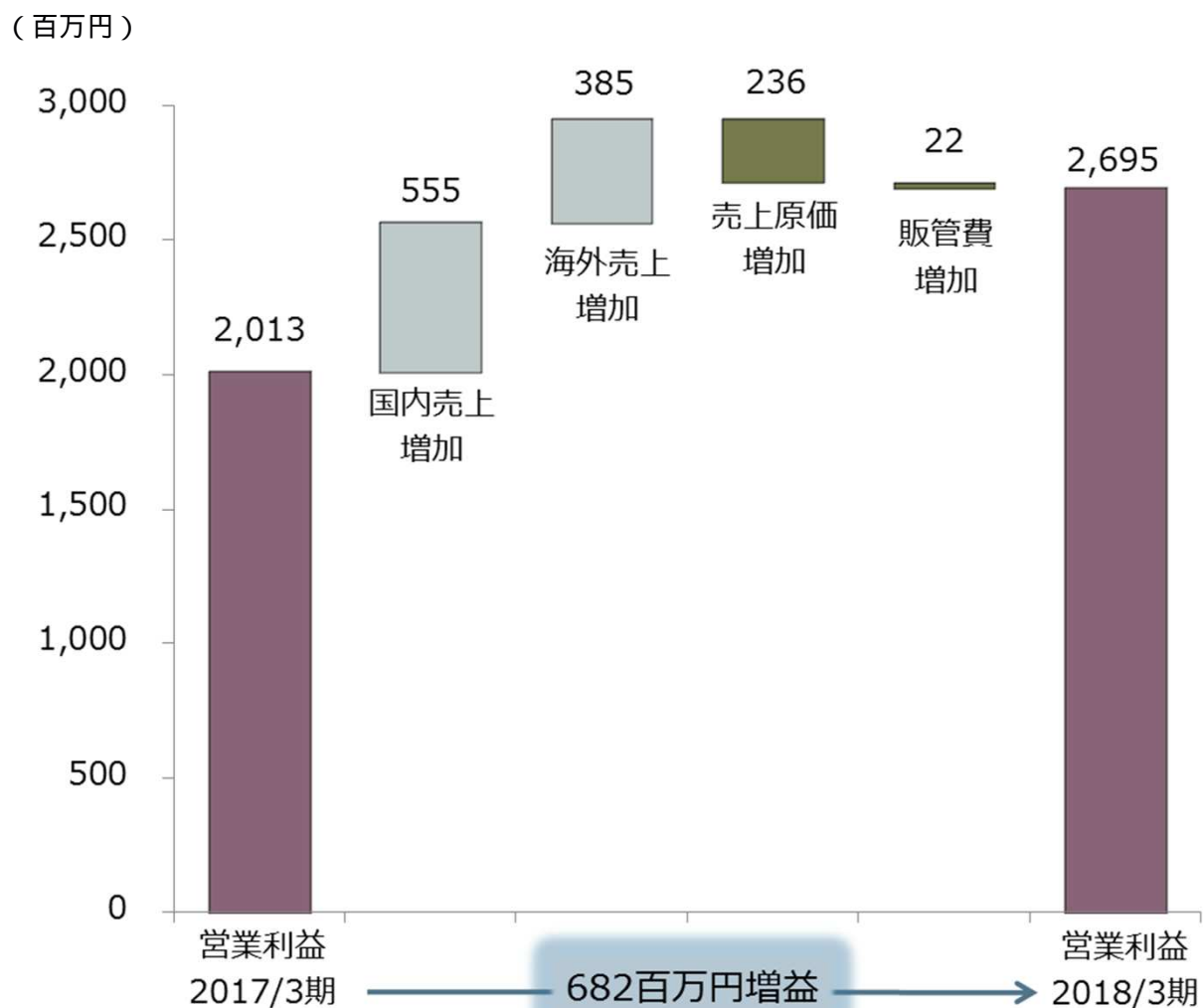
()内は前期比増減率

海外経済の回復や円相場の落ち着いた動きにより輸出の増加基調が続いたほか、企業収益の好調やそれに伴う設備投資の積極化等から、工具需要は順調に推移。

主な需要先では、2017年の国内新車販売が前年比5.3%増と底堅く推移したほか、輸出も持ち直す動きとなった。また、電子部品や半導体関連も、一部新型スマートフォンの販売不振が伝えられたものの、他のスマートフォンやデータセンター向け等により堅調が継続。

このような環境のなか、売上高は前期比10.7%増の9,767百万円、営業利益は同33.9%増の2,695百万円と4期連続の最高益更新となった。

営業利益の増加要因



国内売上高は前期比555百万円、8.3%のアップ、また海外売上高は同385百万円、17.8%のアップとなった。なお売上高全体では同941百万円、10.7%の増加であった。

941百万円の売上高増加に対して、売上原価は236百万円、5.9%の増加に止まったことから、売上総利益は705百万円、14.6%増加した。

販管費は、総合カタログの更新が無かったこと等から22百万円、0.8%の増加に止まった。

営業利益は2,695百万円と682百万円、33.9%増加し、売上高営業利益率は前期から4.8ポイントアップの27.6%となった。

損益計算書サマリー

(百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	前期比	コメント
売上高	8,825	9,767	+10.7%	省エネや自動運転化の進む自動車関連、高機能スマートフォンやAI・ビッグデータ、IoTに絡む半導体や電子部品といった需要先の好調から、国内外ともに順調に推移。
売上総利益 (率)	4,823 (54.7%)	5,528 (56.6%)	+14.6%	増収による効果が大きかったものの、収益率の改善による効果も加わり売上総利益率は56.6%に上昇。
販管費 (率)	2,810 (31.8%)	2,833 (29.0%)	+0.8%	東証一部指定に伴う費用や新聞広告費等の発生があったが、大きな展示会や総合カタログの改訂が無かったこともあり、販管費は前期比0.8%の増加に止まった。売上高販管費比率は29.0%に低下。
営業利益 (率)	2,013 (22.8%)	2,695 (27.6%)	+33.9%	売上総利益が増加したことに加え販売管理費が微増に抑えられたことから営業利益は前期比33.9%増加。売上高営業利益率は27.6%に上昇。
経常利益 (率)	2,026 (23.0%)	2,733 (28.0%)	+34.9%	香港ドル建てで販売している海外子会社での為替差損が減少したこと等から営業外費用が減少、経常利益は前期比34.9%増と営業利益の伸びを上回った。
当期純利益 (率)	1,420 (16.1%)	1,903 (19.5%)	+34.0%	受取保険金等による特別利益が235百万円、取り壊した仙台倉庫の減損損失及び解体費用並びに役員退職慰労引当繰入や社葬費用等により特別損失216百万円が発生。
設備投資額	774	663	-14.4%	機械設備の導入を中心とした通常の設備投資を実施。
減価償却費	632	625	-1.1%	設備投資額が予定を下回ったこともあり、減価償却は減少。
従業員数	322人	338人	+5.0%	営業や工場で人員強化のため中途採用を実施。

()は売上高に対する比率

貸借対照表サマリー

(百万円)

	2017年 3月期	構成比	2018年 3月期	構成比	前期比
(資産の部)					
流動資産	7,971	63.7%	9,985	69.0%	+25.3%
現金及び預金	4,659	37.2%	6,325	43.7%	+35.8%
受取手形及び売掛金	1,422	11.4%	1,508	10.4%	+6.1%
棚卸資産	1,592	12.7%	1,745	12.1%	+9.6%
固定資産	4,546	36.3%	4,481	31.0%	-1.4%
有形固定資産	4,047	32.3%	4,010	27.7%	-0.9%
無形固定資産	118	0.9%	156	1.1%	+32.1%
投資その他の資産	380	3.0%	315	2.2%	-17.0%
資産合計	12,517	100.0%	14,467	100.0%	+15.6%
(負債の部)					
流動負債	1,354	10.8%	1,961	13.6%	+44.8%
買掛金	230	1.8%	281	1.9%	+22.1%
固定負債	495	4.0%	503	3.5%	+1.5%
負債合計	1,850	14.8%	2,465	17.0%	+33.2%
(純資産の部)					
純資産合計	10,666	85.2%	12,002	83.0%	+12.5%
負債・純資産合計	12,517	100.0%	14,467	100.0%	+15.6%

流動資産は、現金及び預金や棚卸資産の増加により前期比25.3%増加。

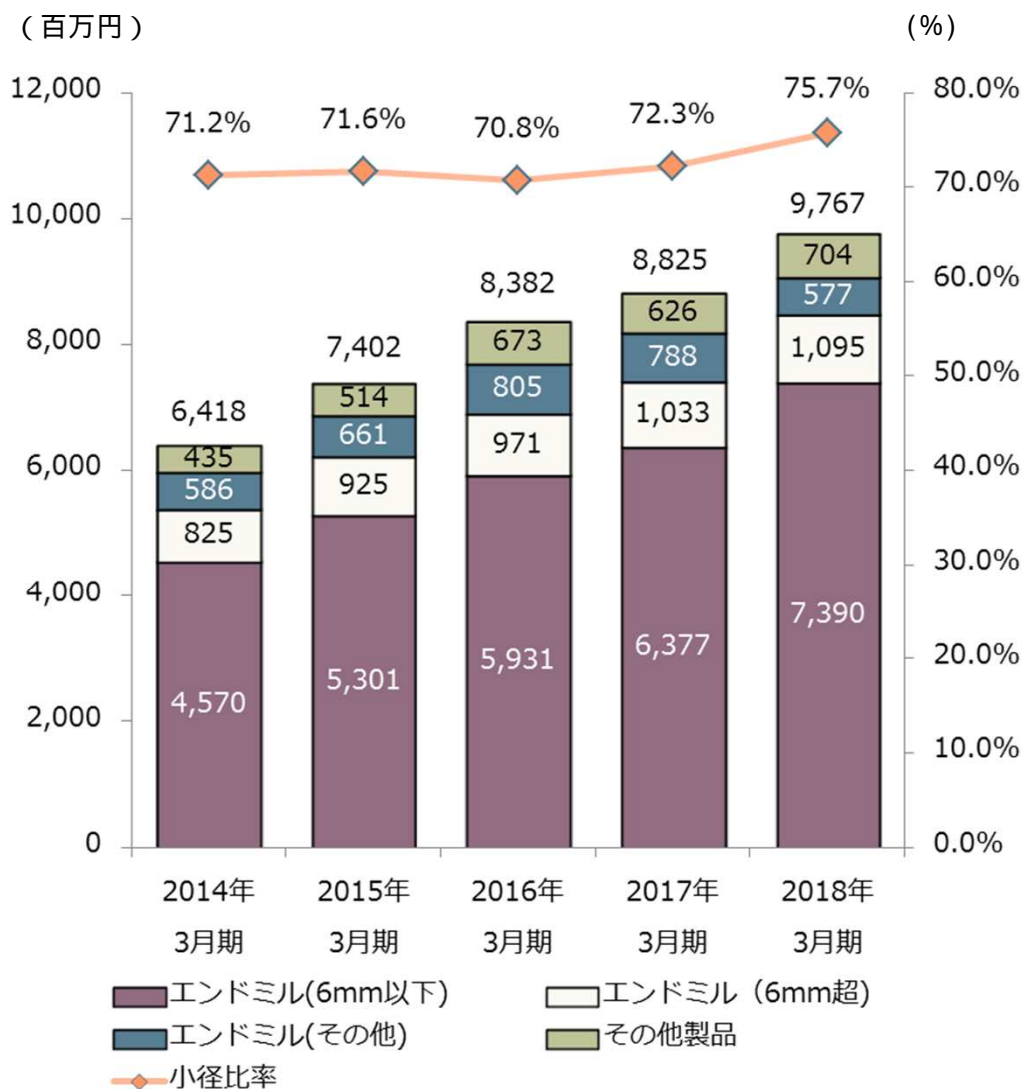
固定資産は、仙台倉庫の取り壊し等により同1.4%減少。

負債は、買掛金や未払法人税等の増加により同33.2%の増加。

純資産は、利益剰余金の増加等から同12.5%増加、ただし自己資本比率は流動負債の増加もあり、83.0%と2.2ポイント低下した。

業績推移（売上高の推移 製品別）

製品別売上高と小径比率の推移



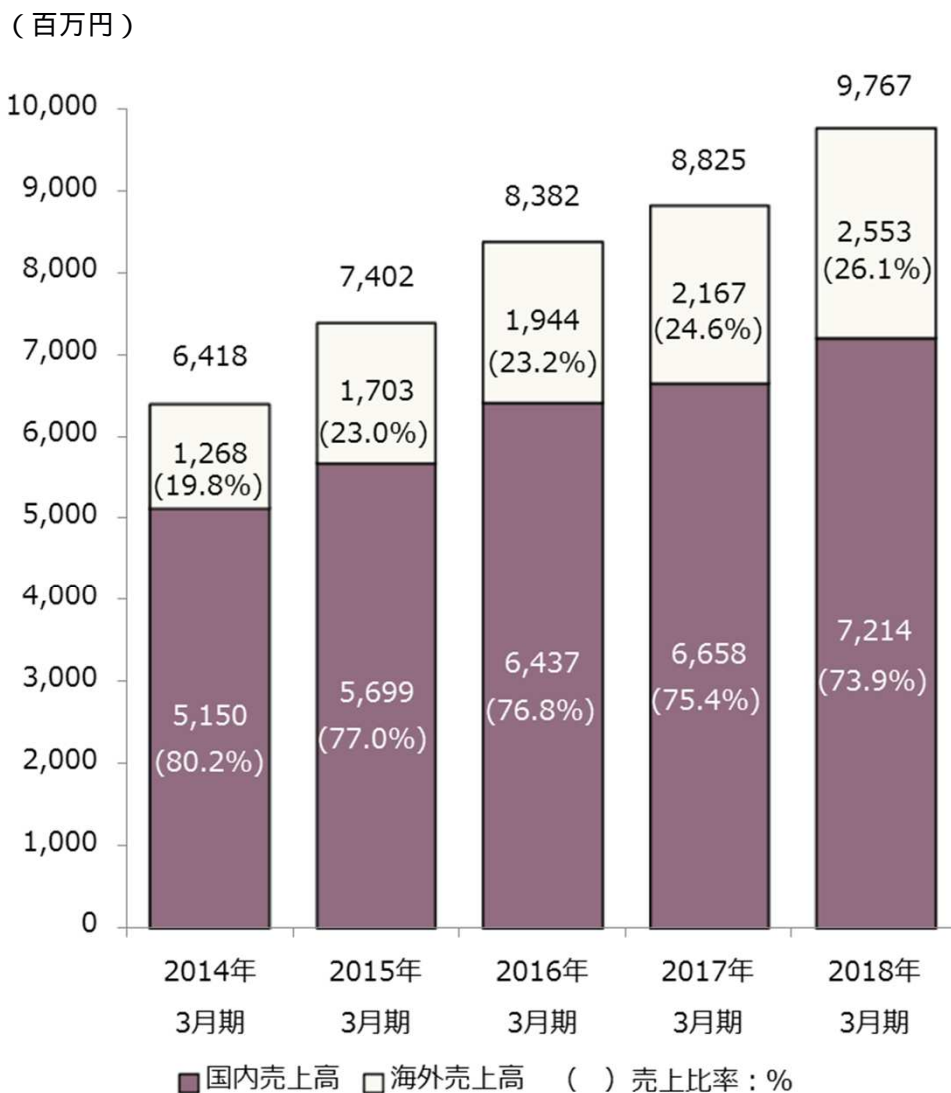
自動車関連ではプリクラッシュブレーキをはじめとした自動運転化の流れが進み、センサーやカメラ、通信モジュールといった様々な電子系の部品が活況。また、IoTやAIが注目され、ビッグデータを蓄積するデータセンター等の需要から半導体も増加が続き、製造装置向けの部品加工等、小径エンドミル需要は概ね順調に推移した。

連結売上高は、前期比10.7%増加の9,767百万円と6期連続で過去最高を更新。

製品別では、エンドミル(6mm以下)が前期比+15.9%、エンドミル(6mm超)が同+5.9%と伸びた一方、エンドミル(その他)は同26.8%と減少。その他は同+12.4%であった。これにより小径比率は75.7%と前期の72.3%から3.4ポイント上昇した。

業績推移（売上高の推移 国内・海外）

国内・海外売上高の推移

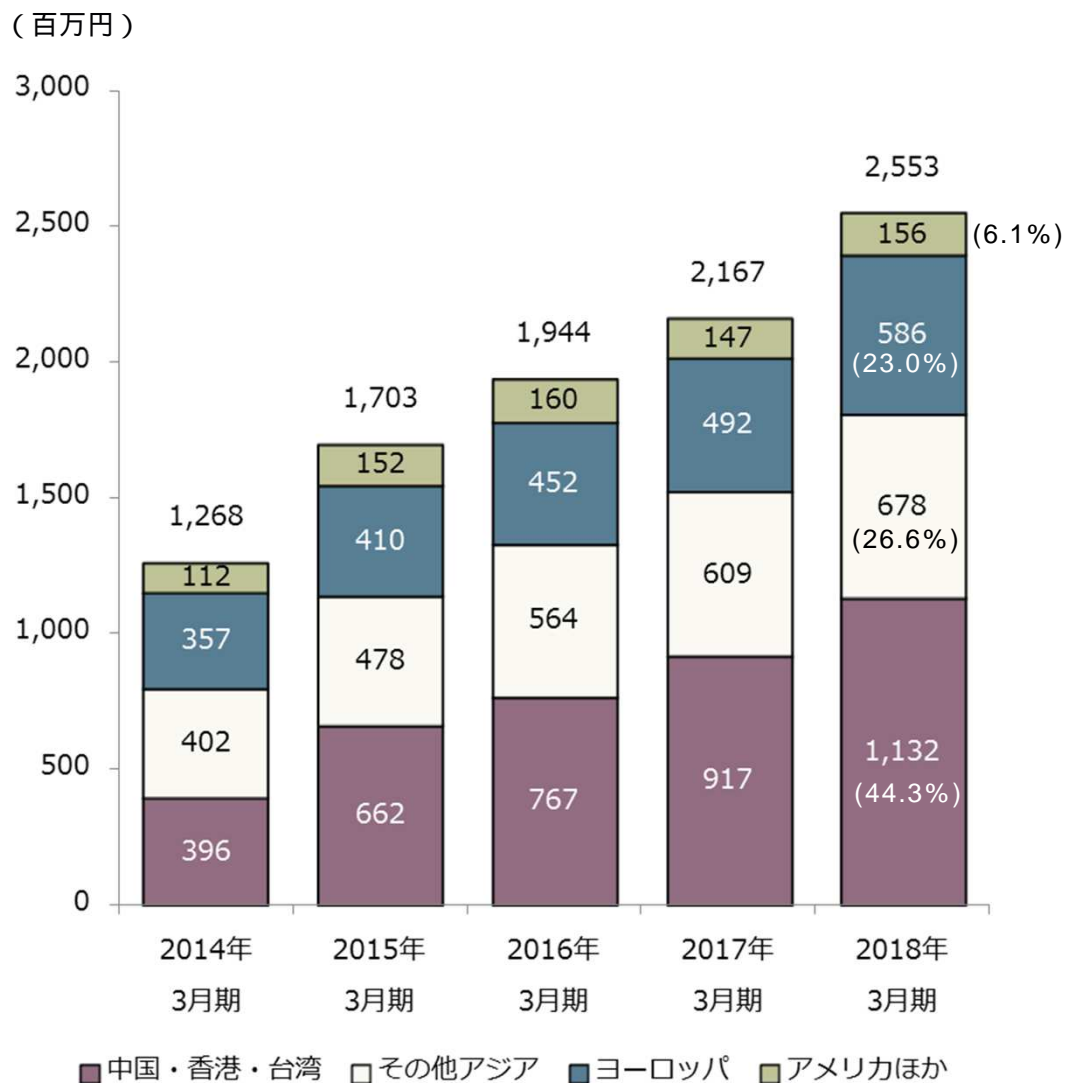


中国向けが牽引し、海外向け売上高は前期比+17.8%と大きく伸びた。

国内向け売上高も順調に推移し同8.3%増となったが、海外向けの増加率が上回り、海外売上高比率は26.1%と全体の4分の1超を海外向け売上高が占めた。

業績推移（売上高の推移 海外地域別）

海外地域別売上高の推移



海外地域別の売上高は、中国・香港・台湾が前期比23.4%増の1,132百万円。

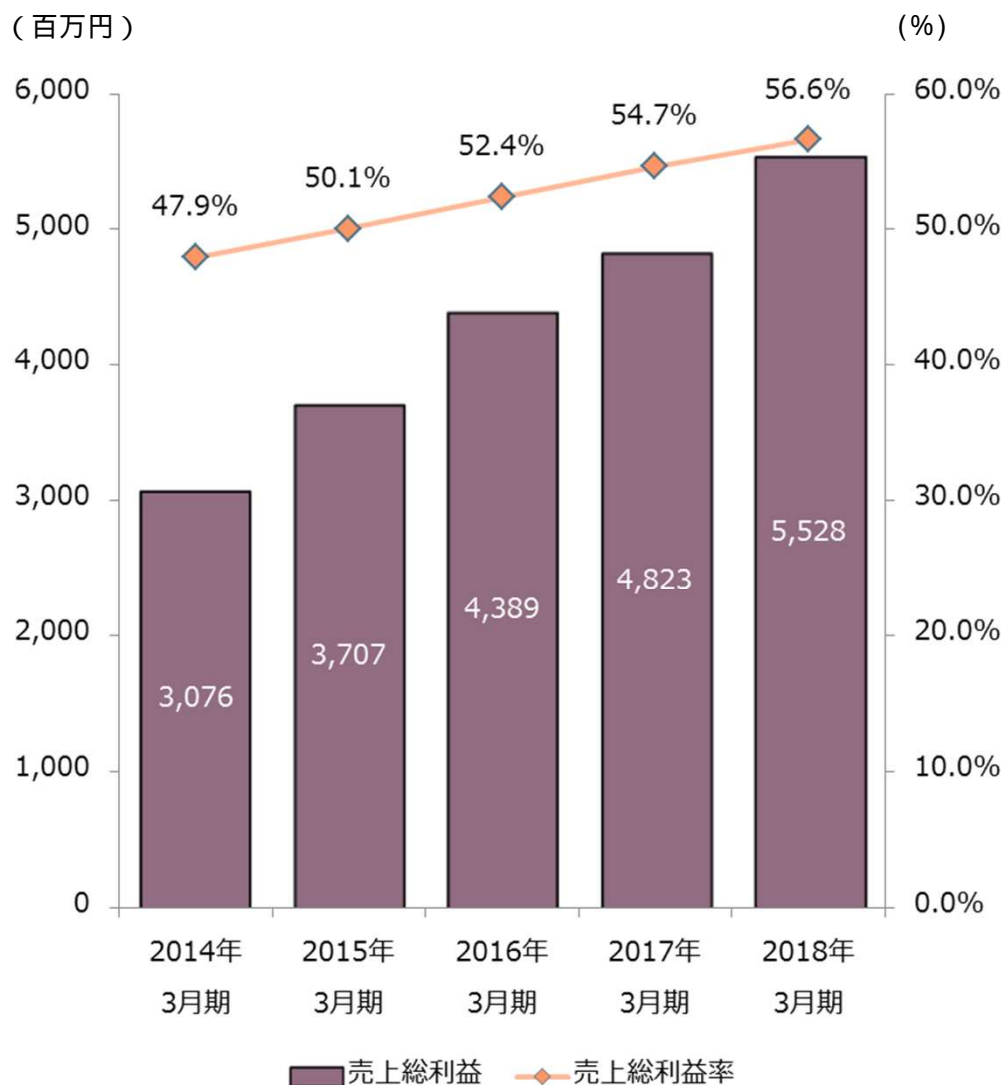
海外売上高に占める比率は44.3%と半分近くを占めた。

その他アジアはタイを中心に同11.2%増の678百万円。ヨーロッパはドイツ、イタリア、スイスを中心に底堅い動きとなった。

アメリカほかは絶対額自体も少なく、なかなか伸びてこない状況。医療分野等でのニーズがあると思われるが、中国でのスマートフォン向けのような精密・微細加工の大きなマーケットが無い。

業績推移（売上総利益の推移）

売上総利益と売上総利益率の推移



売上原価が前期比5.9%増に止まったことから、売上総利益は同14.6%増の5,528百万円となり、売上総利益率は56.6%と前期に比べ1.9ポイント上昇。

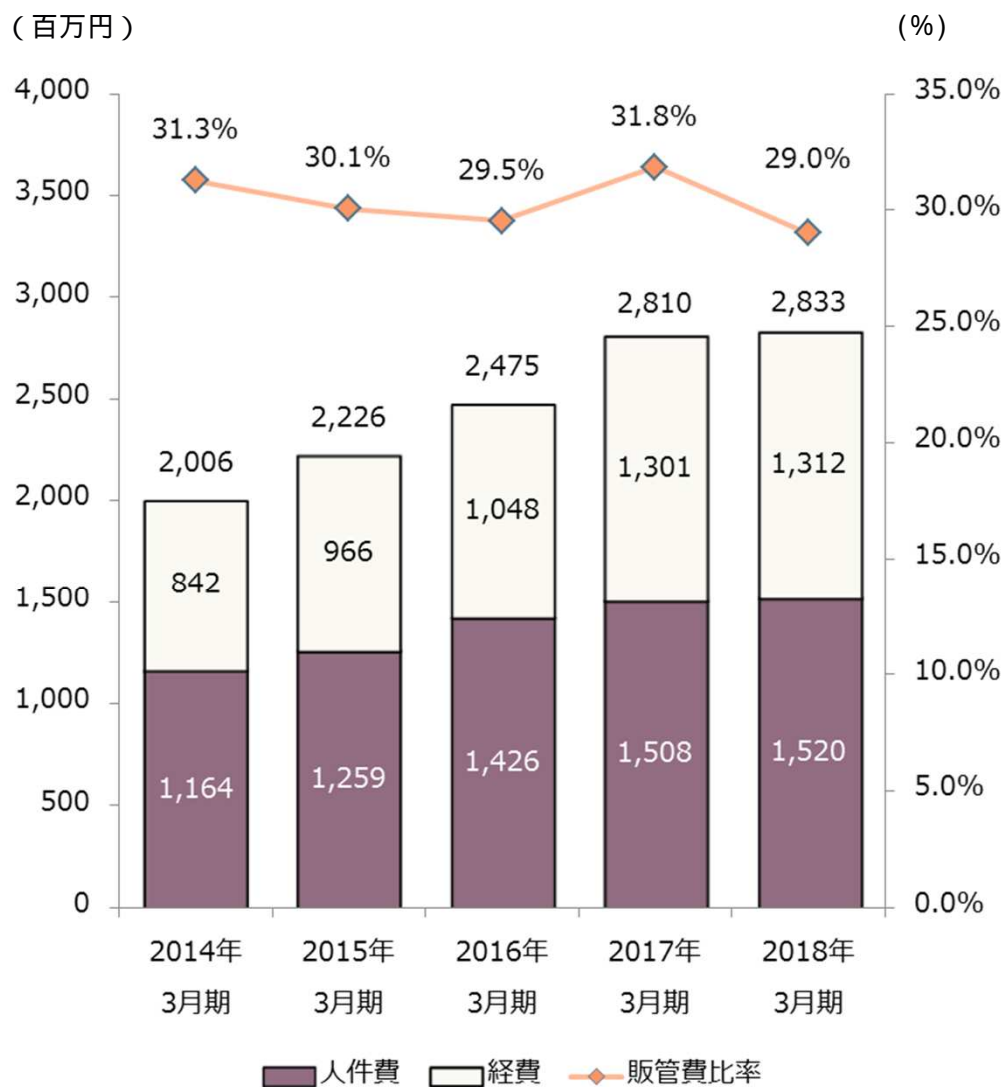
売上総利益の増加の内、増収による効果が514百万円、収益率の改善による効果が189百万円であった。

製品区分別にみると、エンドミル（6mm以下）では増収による効果が593百万円、収益率の改善による260百万円といずれもプラスであったが、他の製品区分では、収益率の改善による効果が僅かながらマイナスとなった。

主力のエンドミル（6mm以下）では、自社開発機の増強等による自動化が進展し、増産効果も大きく、効率化が進んでいるが、他の製品区分は効率化が遅れている状況。

業績推移（販管費の推移）

販管費と販管費比率の推移

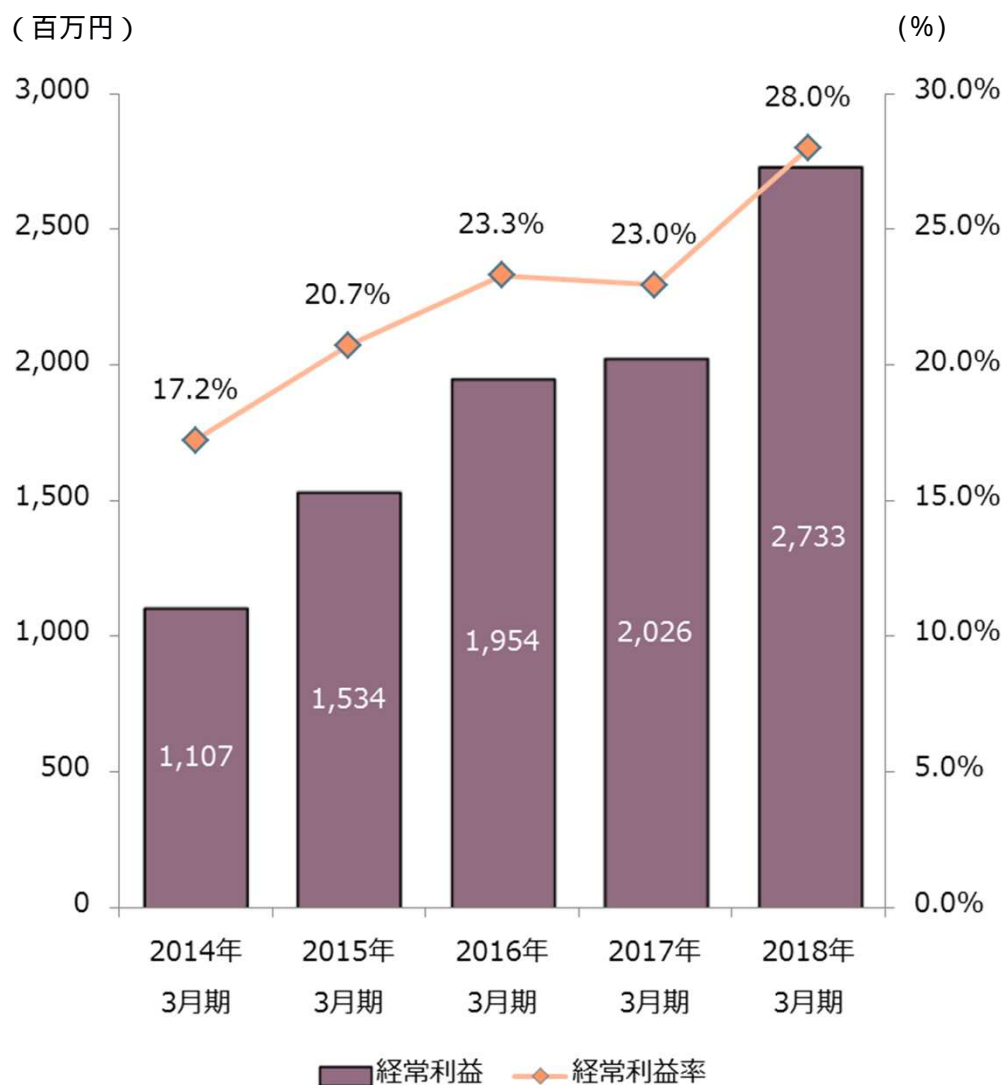


販管費では、東証一部指定に伴う費用や認知度向上のために行った新聞広告等の費用が加わったものの、日本最大の工作機械関連見本市であるJIMTOF（2年に1度開催）及びJIMTOF開催にあわせて行う総合カタログの改訂が無かったこと等から、一般経費が前期の水準に止まったため、人件費を含めた全体で2,833百万円と前期比0.8%の増加に止まった。

このため、売上高販管費比率は29.0%と前期に比べ2.8ポイントの低下となった。

業績推移（経常利益の推移）

経常利益と売上高経常利益率の推移



売上総利益が前期に比べ705百万円、14.6%増加した一方、販管費がほぼ前期並みの水準に止まったため、営業利益は前期比33.9%増加の2,695百万円に拡大した。

営業外損益では、企業立地奨励金の受領等から前期に比べ収益が13百万円増加する一方、前期に9百万円あった香港現地法人の為替差損が1百万円に減少したこと等から費用は12百万円の減少となった。

これらにより経常利益は2,733百万円と前期に比べ34.9%の増加となった。

売上高経常利益率は28.0%となり、目標に掲げる20%を大きく上回り、前期に比べ5.0ポイント上昇。

2019年3月期の業績見通し



業績見通し

(百万円)

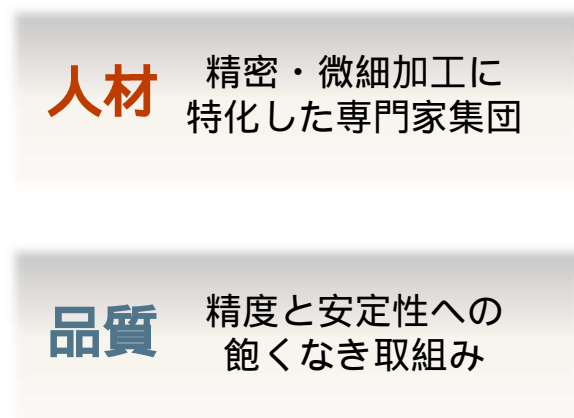
	2018年3月期 実績	2019年3月期 予想	前期比	コメント
売上高	9,767	10,520	+7.7%	引き続き自動車、電子部品、半導体等の産業を中心に小径エンドミルの需要は堅調に推移すると予想。
営業利益	2,695	2,750	+2.0%	原材料費の上昇が見込まれる他、前期は無かった展示会（JIMTOF）や総合カタログの改訂等による費用を見込む。
経常利益	2,733	2,780	+1.7%	同上
当期純利益	1,903	1,910	+0.3%	同上
設備投資額	663	925	+39.6%	販売・生産量の増加に対応するため、工具研削盤や測定器等の設備増強を図る。
減価償却費	625	675	+7.9%	機械設備の増強による上昇を見込む。
EPS	152.23円	152.76円	+0.3%	
1株当り配当金	45円	45円	0.0%	利益水準を横ばいと想定していることに加え、今後の工場隣接地での新たな建物の建設資金を考慮し、年間配当45円を予定。

2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

2019年3月期の重点戦略（継続）



**連結売上高100億円の達成
&
経常利益率20%、ROE10%の確保**



生産

自動化の推進
製造技術向上による
更なる高精度化の実現

販売

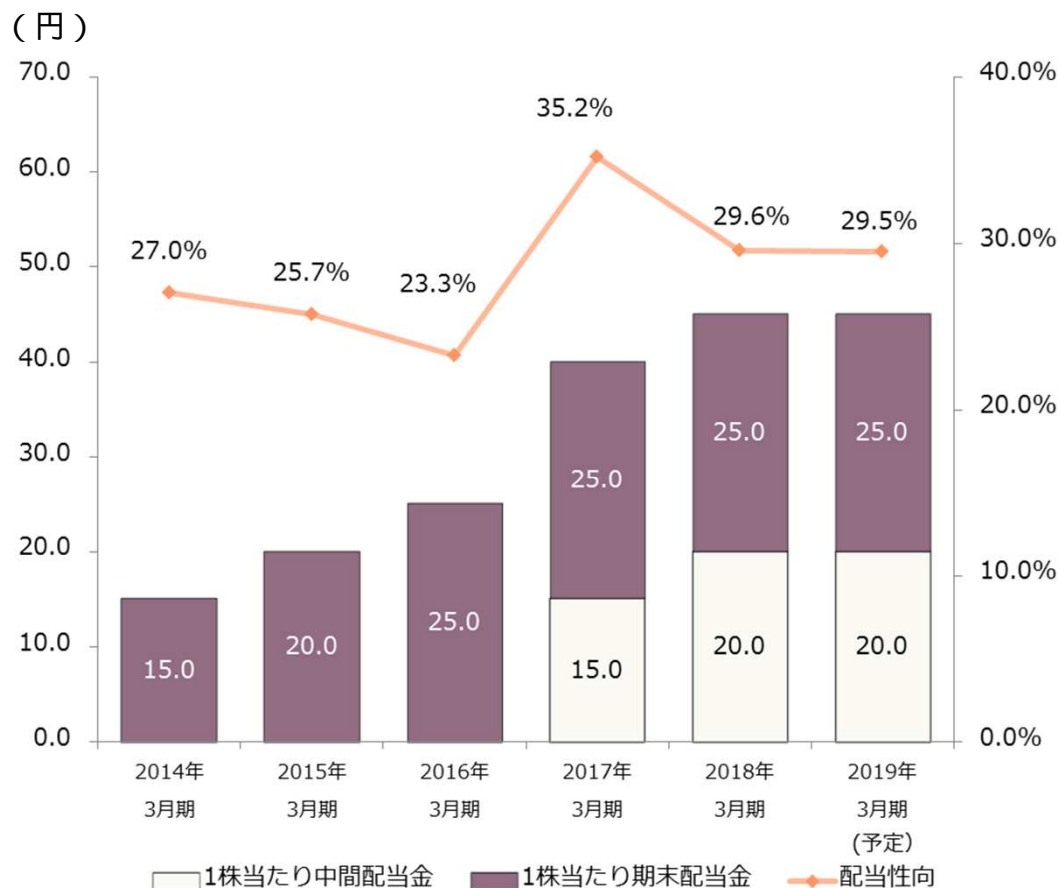
新規ユーザーの開拓
既存ユーザーの深耕
海外市場の拡大

開発

画期的な高付加価値製品の
開発

持続的成長の実現

配当予想（株主還元について）



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

業績に応じた利益還元

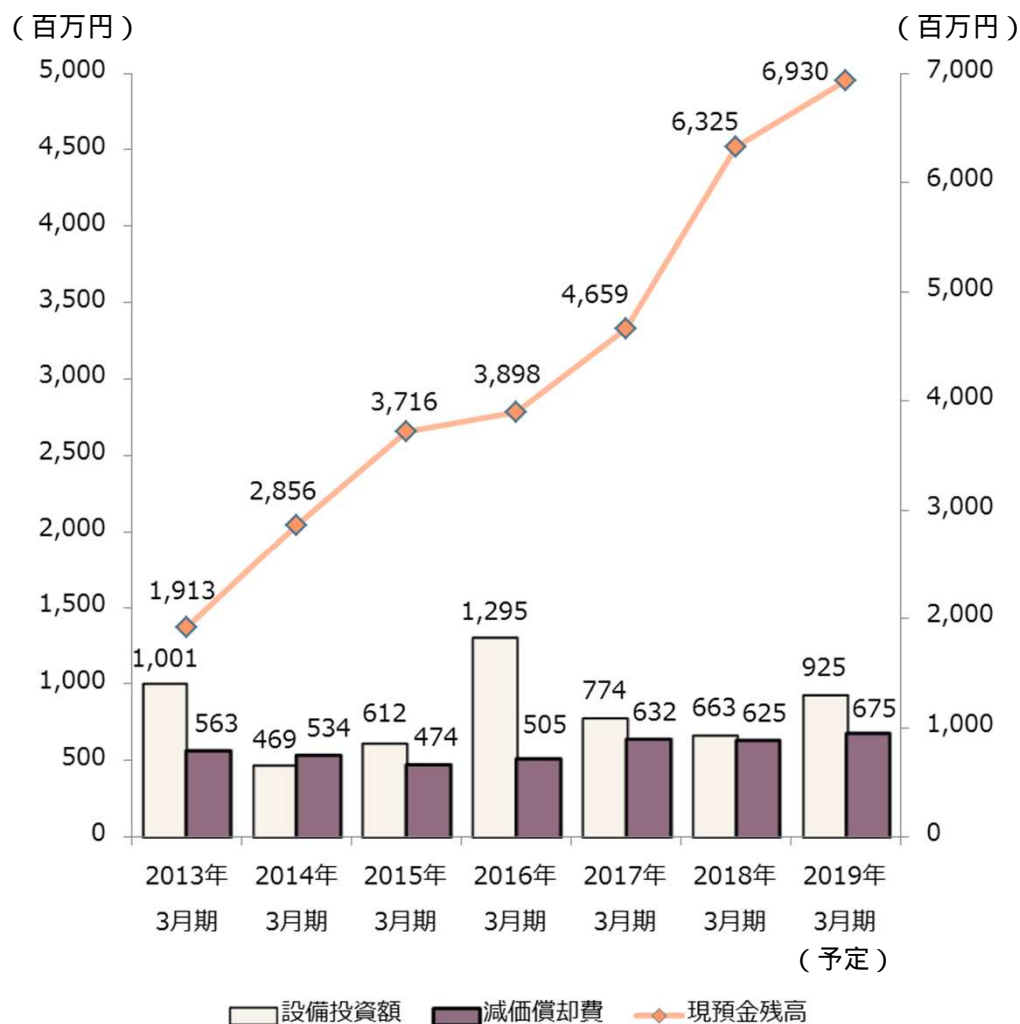
- 2018年3月期の1株当たり年間配当金は45円
中間配当は20円
期末配当は25円（普通配当20円、記念配当5円）
配当性向は29.6%
- 2019年3月期の1株当たり年間配当金は45円を予定
中間配当20円、期末配当25円
業績予想に対する配当性向は29.5%
利益水準を横ばいと想定していることに加え、
今後の工場隣接地での新たな建物の建設資金を考慮
- 株主優待
毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された
1单元（100株）以上を保有する株主様を対象に
オリジナルクオカード1,000円分を贈呈

自社株買いではなく
配当にウェイトを置く方針

設備投資と減価償却費のトレンド

増減要因

設備投資、減価償却費及び現預金残高の推移



(左軸：設備投資額・減価償却費、右軸：現預金残高)

2013年3月期

牧野工業白河工場の建設により
設備投資額が高水準

2016年3月期

工場増設と機械設備の前倒し導入により
年度設備投資額は過去最高

2017年3月期

設備投資は通常の水準となったが
前期の工場増設等により減価償却費が増加

2018年3月期

設備投資は機械設備を中心に663百万円と
計画を若干下回り、減価償却費も微減と
なった。

2019年3月期計画

販売・生産量の増加に対応するため、工具
研削盤や測定機器等の設備増強を図るため、
例年に比べ増加の予定。

< 参考資料 >



企業概要

- 商号 : 日進工具株式会社
- 事業内容 : 工作機械に取付けて、金属等の切削加工を行う
超硬エンドミルの専門メーカー
- 特長 : 精密・微細加工に使用される小径工具に特化
- 創業 : 1954年12月
- 従業員 : 単体210名（グループ合計338名）
- 連結業績 : 売上高 97.6億円 経常利益 27.3億円
(2018年3月期) (売上高経常利益率 28.0%)

企業概要

代表者プロフィール



代表取締役社長 後藤 弘治 (56歳)

1986年 入社
 1995年 専務取締役就任
 2011年 代表取締役副社長就任
 2013年 代表取締役社長就任

ブランドステートメント

「つくる」の先をつくる

社是

明 楽 創

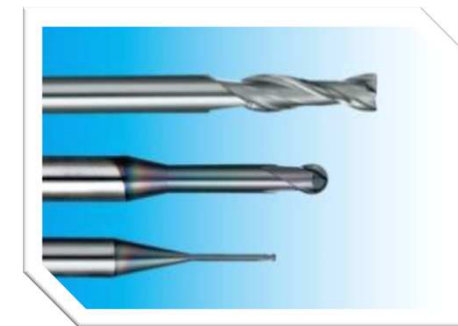
明るく、楽しく、創造をしよう。

株式関係

上場市場 : 東京証券取引所市場第一部
 株価 : 3,120円 (2018年3月31日)
 発行済株式数 : 12,504,000株

日進工具の特長

- ✓ 精密加工に欠かせない
小径エンドミルのトップメーカー



- ✓ 独自のニッチ・トップ戦略による堅実な経営



着実な成長を継続	無理に売上を追わない（利益重視）
高い収益性を確保	高付加価値製品と生産の効率化
無借金経営の堅持	強固な財務基盤

日進工具 3つの強み

【超硬小径エンドミル ニッチ・トップ戦略】

Made in Japanで勝負



生産力

高品質製品を安定的に供給

自社開発機による自動化の推進
他社が追随できない生産性を誇る

開発力

超モノづくり部品大賞等を受賞



高付加価値・次世代製品への取り組み
カギは製品の超微細化と長寿命化

販売力



高付加価値に特化

小径エンドミルではトップクラスのシェア

精密・微細加工を主とした加工技術提案
海外でも急速に認知度がアップ

財務体質

強固な財務基盤と高い収益力

【有利子負債 ゼロ】 【経常利益率 28.0%】 (2018/3期)

超硬小径エンドミル市場の概況

機械工具生産金額 (2017年)
総額 4,642 億円

超硬工具 2,821 億円 (60.8%)

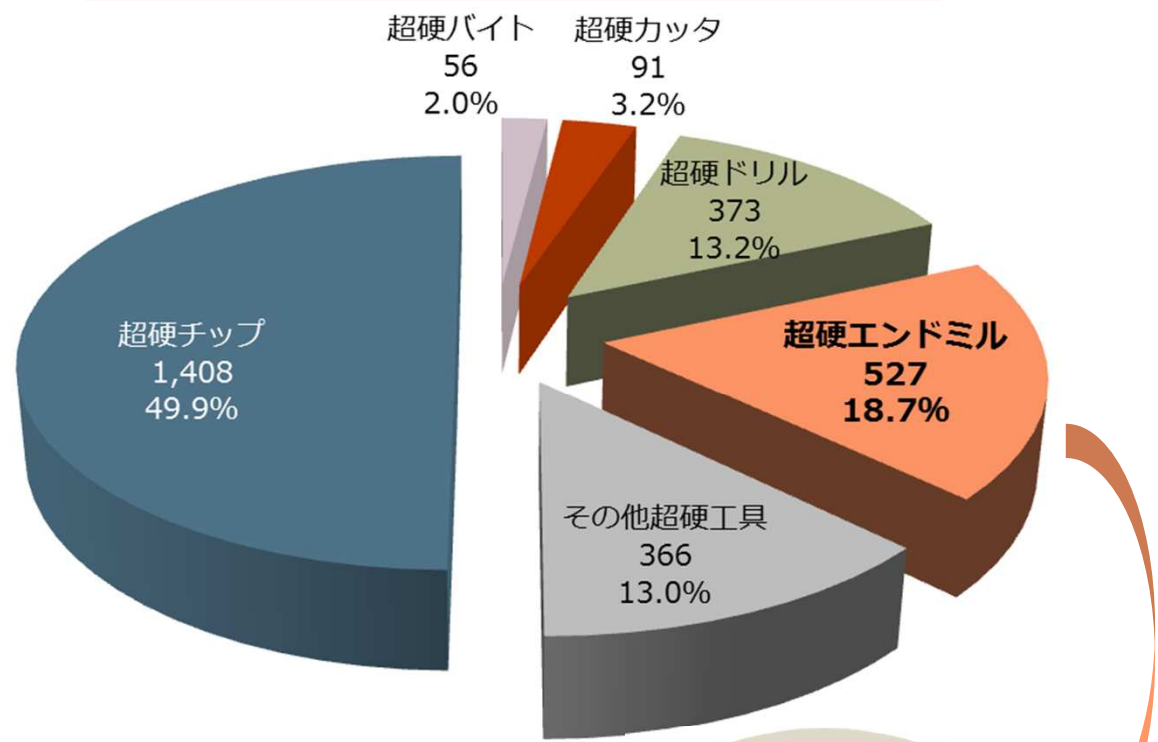
C(W)BN工具 265 億円 (5.7%)

ダイヤモンド工具 693 億円 (14.9%)

特殊鋼切削工具 863 億円 (18.6%)

出所：経済産業省機械統計

超硬工具 2,821 億円 (内訳)



超硬小径エンドミル における圧倒的な強さを目指す

超硬エンドミルのうち刃径6mm以下のもの

小径市場は
約194億円

出所：当社推計

当社製品の用途と主な需要業種

【小径エンドミルは先端的な製品の加工に不可欠】

当社製品
(超硬小径エンドミル)



金型加工

部品加工



輸送機械

自動車、バイク

電気機器

家電、P C、A V 機器、LED照明、
通信機器 (スマートフォン・タブレット端末)

その他

精密機器、光学レンズ
医療機器、燃料電池、ほか

大手から中小まで5,000社を超えるユーザーに販売

生産・開発拠点（仙台北部中核工業団地）



工場内風景



取得済みの隣接土地、
倉庫は取り壊し済み。
今後、開発又は生産施設
の建設を検討。

グループ会社の概要

連結子会社

(2018年3月31日現在)

株式会社ジーテック

所在地 : 東京都品川区

事業内容 : 当社製品の販売



株式会社牧野工業

所在地

本社 : 福島県白河市

東京事務所 : 東京都荒川区



事業内容 : 工具ケースを主力とした
プラスチック成形品の製造・販売

株式会社日進エンジニアリング

所在地

本社 : 宮城県黒川郡
大和町

新潟工場 : 新潟県魚沼市

事業内容 : コーティング加工、再研磨
超硬エンドミルの受託加工
(刃径6mm超の製品)



NS TOOL HONG KONG LIMITED (日進工具香港有限公司)

所在地 : 中華人民共和国香港特別行政区

事業内容 : 当社製品の販売
(香港・中国)

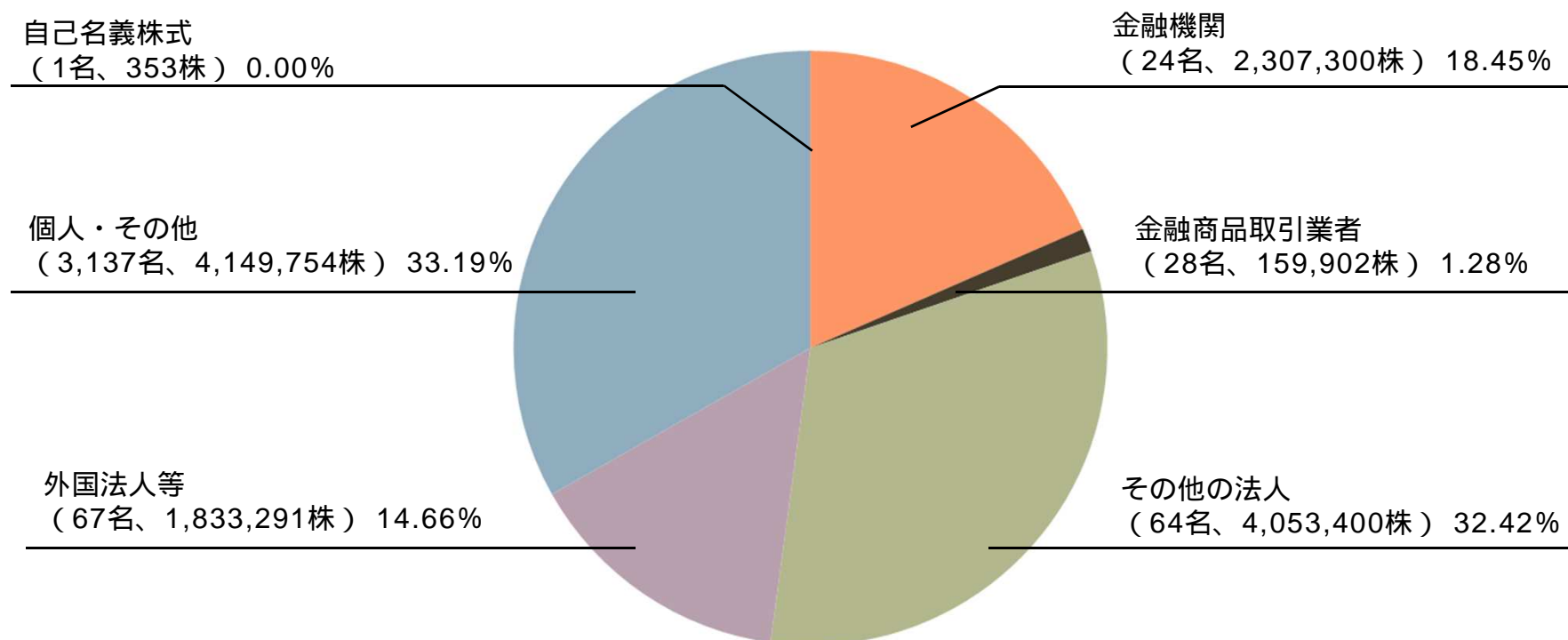


株式の状況

2018年3月31日現在

発行可能株式総数	:	19,200,000株
発行済株式総数	:	12,504,000株
株主数	:	3,321名

所有者別株式数分布状況



過去5年間の業績と主要データ推移

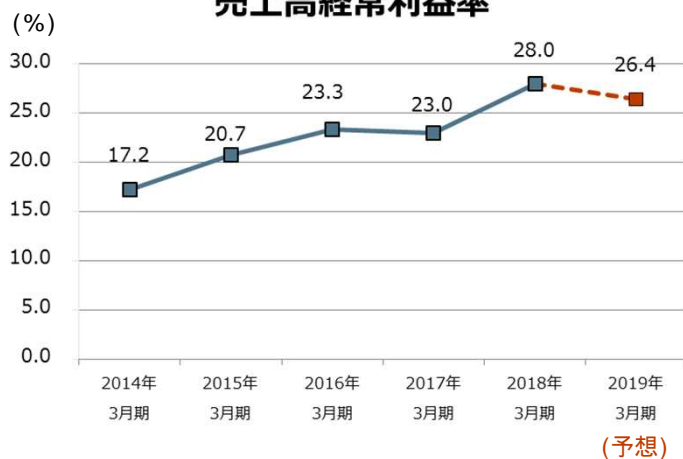
(百万円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期
売上高	6,418	7,402	8,382	8,825	9,767
営業利益(率)	1,069 (16.7%)	1,481 (20.0%)	1,914 (22.8%)	2,013 (22.8%)	2,695 (27.6%)
経常利益(率)	1,107 (17.2%)	1,534 (20.7%)	1,954 (23.3%)	2,026 (23.0%)	2,733 (28.0%)
当期純利益(率)	694 (10.8%)	973 (13.1%)	1,342 (16.0%)	1,420 (16.1%)	1,903 (19.5%)
有利子負債額					
純資産額	7,680	8,480	9,569	10,666	12,002
総資産額	9,075	10,339	11,371	12,517	14,467
自己資本比率	84.6%	82.0%	84.2%	85.2%	83.0%
設備投資額	469	612	1,295	774	663
減価償却費	534	474	505	632	625
1株当たり配当金	15円	20円	25円	40円	45円
従業員数	284人	281人	280人	322人	338人

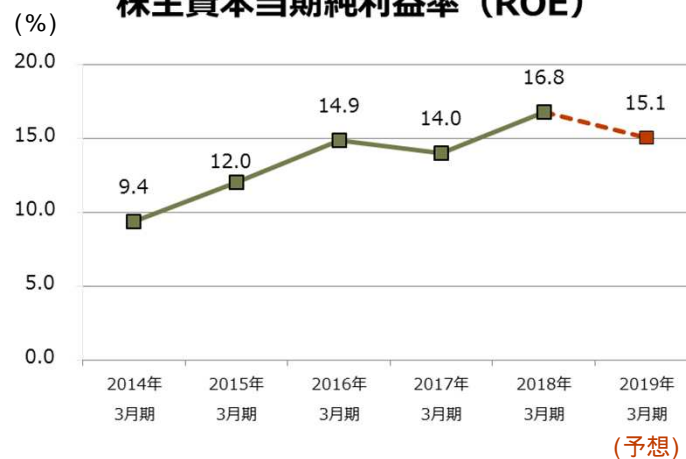
2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

投資指標

売上高経常利益率



株主資本当期純利益率 (ROE)



1株当たり当期純利益 (EPS)



株価収益率 (PER)



株価純資産倍率 (PBR)

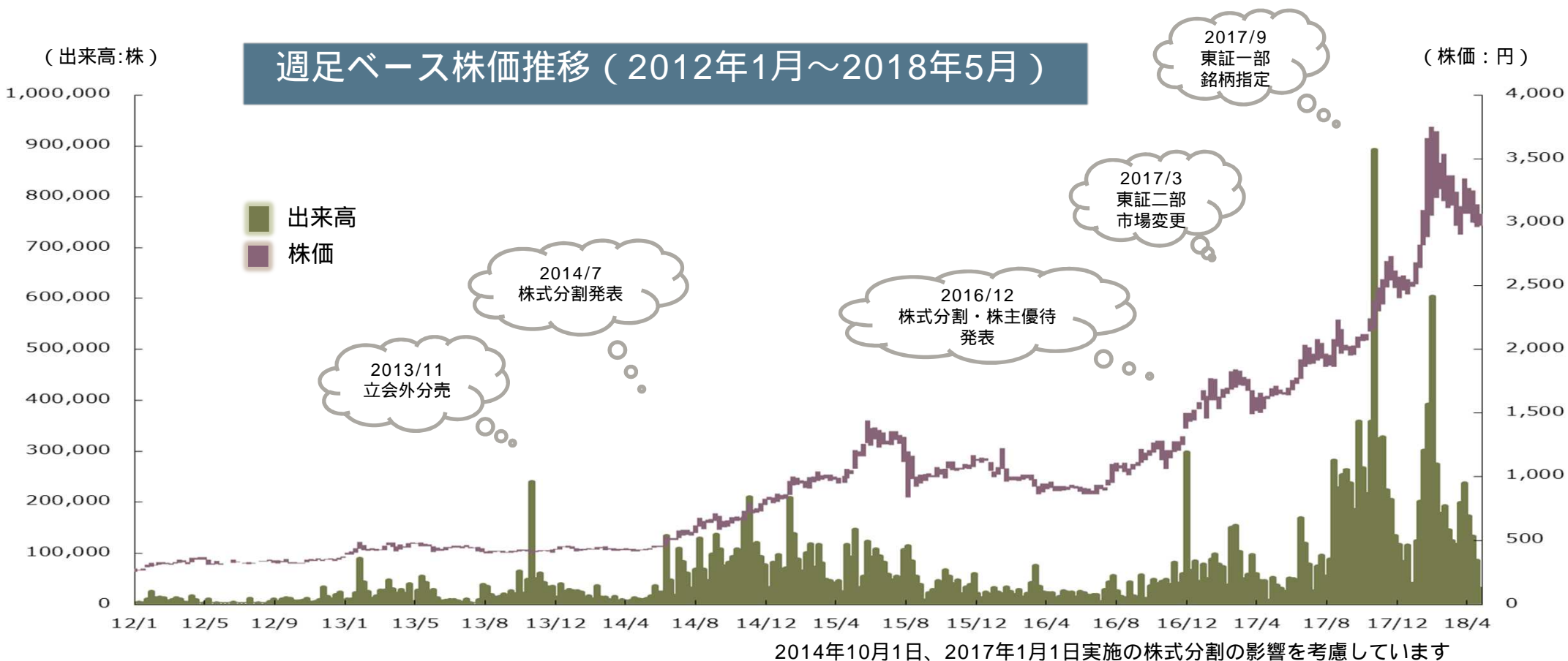


時価総額 (3月末時点)



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

株価推移とバリュエーション



バリュエーション (2018年5月7日現在)

売買単位：100株

時価総額：373億円

ROE (18/3期実績)：16.8%

単元株価格：29万8,700円

PER (19/3期予想)：19.55倍

PBR (18/3期実績)：3.11倍

IR情報サイトのご案内

IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています

メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます
現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります

IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます

URL : <http://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください

お問い合わせ

日進工具株式会社

執行役員	経営企画室長	田島	寛
管理部	経理課課長	今関	弘毅
管理部	I R 担当	松尾	友紀子

TEL : 03-3763-5672
FAX : 03-3764-8225
E-mail : ir@ns-tool.com

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。